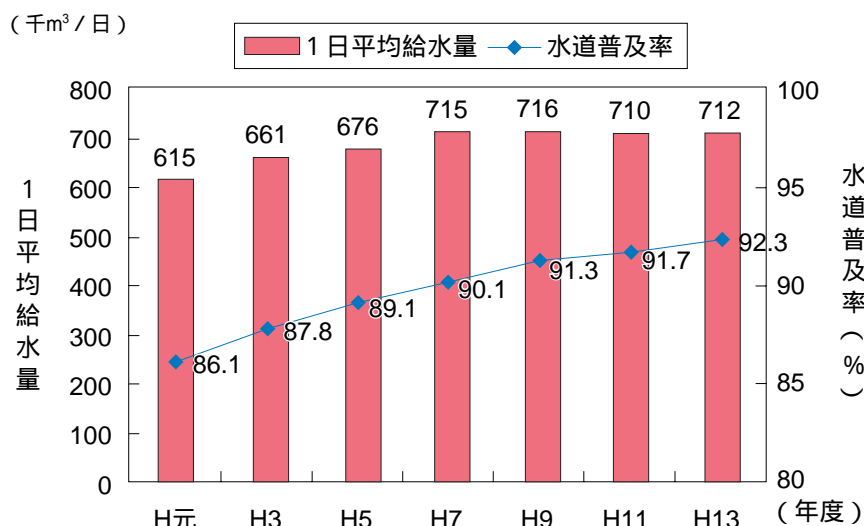


7 水利用

(1) 水道用水の利用状況

水道の給水量は、水道普及率の向上とともに増加してきたが、平成7年度以降は、ほぼ横ばい傾向で推移している。

図2 - 17 水道の給水量及び水道普及率の推移

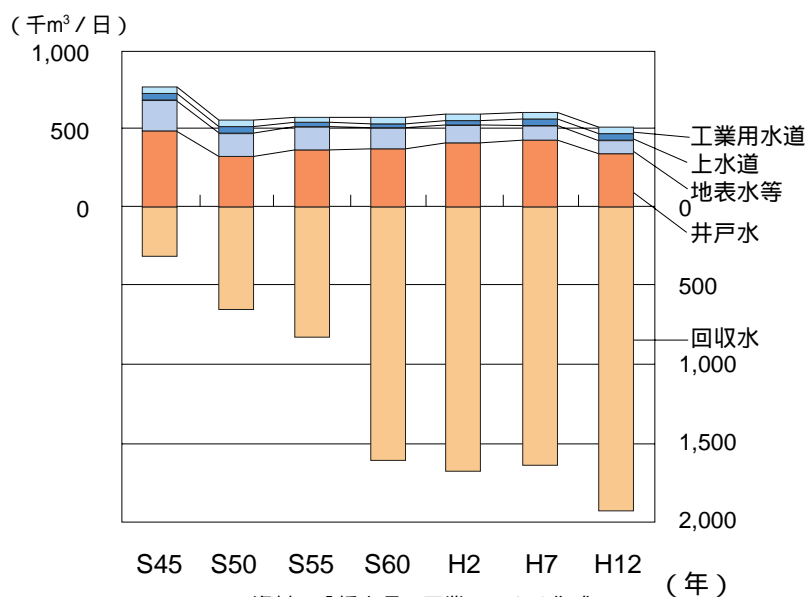


資料：「栃木の水道 平成13年度版」(生活衛生課)により作成

(2) 工業用水の利用状況

工業用水の使用量は、昭和60年までは増加傾向にあったが、以降は概ね横ばいである。また、工業用水使用量全体に占める回収水の割合は、昭和60年以降、7～8割程度で推移している。

図2 - 18 工業用水の一日当たり水源別使用量の推移



資料：「栃木県の工業」により作成

(3) 農業用水の利用状況

農業用水の需要量は、年間約23億 m^3 であり、地下水利用が全体の28%を占めている。

表2-3 農業用水の需要量（単位：百万 m^3 /年）

需要量	需要量の内訳		地下水が全体に占める割合
	地表水	地下水	
2,261	1,631	630	28%

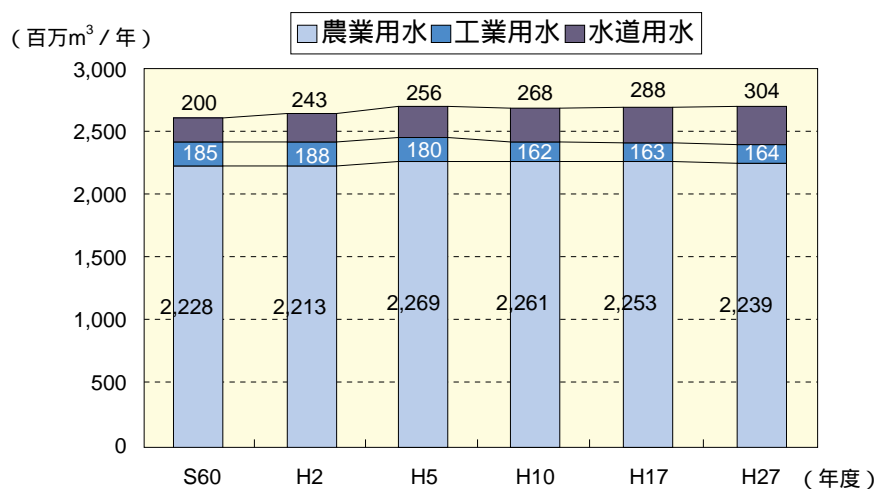
- (注) 1 需要量の合計は、「とちぎ21世紀プラン」(平成13年)農業用水需要量推計(平成10年の値)による。
 2 地下水量は、「第4回農業用水地下水利用実態調査」(平成8年調査)結果をもとにした平成11年推計値である。

(4) 水需要予測

本県の水需要量は、全体の84%を農業用水、10%を水道用水、6%を工業用水が占めている。

水道用水は、給水人口の増加等により、今後も緩やかに増加するものと予測される。工業用水は、新規の工場立地や景気回復に伴う増加が見込まれるものの、一方では一度利用した廃水の循環・再利用等の水利用の合理化が進むと見込まれることから、総じて横ばい傾向で推移すると予測される。農業用水は、水田面積が減少しているものの、水田整備に伴う面積当たりの必要水量の増加等によりほぼ横ばいとなっているが、今後の農地面積の減少に伴い緩やかに減少していくものと予測される。このように、用水によって状況の違いがあるものの、全体として横ばい傾向で推移していくものと予測される。

図2-19 水需要の推移



(注) 昭和60年度～平成10年度は実績値、17年度以降は予測値である。
 資料：「とちぎ21世紀プラン」(平成13年栃木県)